

学年・学級経営を進めるにあたって、児童生徒の実態に応じて次の4つの視点のそれぞれを充たす事例を収集・開発して、これをもとに意図的計画的に指導・援助したり活動させたりすれば、4つの視点が達成され社会の変化に主体的に対応できる個性豊かな児童生徒の育成につながるであろう。

視点1 個の存在を認め大切にすること。

視点2 個の特性をとらえ生かす。

視点3 認知的側面と情意的側面との調和ある活動にする。

視点4 個性豊かな生き方のための基礎・基本を習得させる。

視 点

「個を生かす学年・学級経営」に導くための視点で4つある。

それには

上の視点にアプローチするために分析して、それぞれの視点に対し「それには」どうすればよいかを明らかにする。各視点ごとに2～3項目ある。

そのために

「それには」を分析し方法、方策、努力点等充実策を「そのために」はどうすればよいかとしてまとめてある。「それには」ごとに2～4項目ある。

そ こ で

「そのために」を可能にする具体的な指導・活動事例を収集・開発し「そこで」としてまとめてある。指導上の留意点も記入し分かりやすく利用しやすいようにした。

### Ⅲ 本年度研究の概要

#### 1 個を生かす学年・学級経営アイディア集

##### (1) 構成

編集・作成する意図は研究内容のところで触れたので、ここでは、構成について述べる。

##### (2) アイディア集 ー抜粋ー

##### 視 点 1

個の存在を認め、個の存在を大切にすること

それには 1-1

教育課程一般編等を、学年・学級経営の立場から吟味し、個の願いや目標を学年・学級の目標設定に反映させる。

そのために 1-1-1

「個の存在を大切にすること」立場から、教育目標、学年・学級目標を見直す。

そこで

1. 学校や児童生徒の実態を分析し、教育目標に個を生かす視点からの具体内容を設定する。または、教育目標から設定する「本校の目指す児童（生徒）像」の中に「個の存在を認め、個の存在を大切にすること」内容の項目を入れる。
2. 学年・学級の「志向する、目指す児童生徒像」を学年・学級目標から具体的に設定する。
3. 学年・学級目標と関連させて、児童生徒一人一人に具体的な生活・学習目標を立てさせる。
4. 個の存在を認め、個を大切にすること観点からの望ましい学級づくりをする。

留意点

- 1-1 児童生徒にとって、身近でわかりやすい表現にする。
- 2-1 児童生徒、保護者にも「学年・学級の目指す児童生徒像」を周知させる。「学年・学級だより」などの活用も考えられる。
- 3-1 学年・学級目標にせまる具体的な事項を児童生徒と話し合い、まとめておく。
  - 2 一人一人の具体的な目標設定は、はじめは達成しやすい目標とし、次第に高次な目標にしていく。成就感、達成感等を味わえるようにする。
- 4-1 失敗を笑わない学級、いじめのない学級、何でも話し合える学級づくりを目指す。